

夏に多い農薬の被害

今年の夏は、九州の豪雨災害をはじめ雨の日が多く、湿度も高く過ごしにくい日々でした。そのことも関係あるのか、ガ、チョウ、カメムシなどの昆虫が異常に少ないな、と感じました。皆様の所ではどうですか？最近使用量の増えている殺虫剤、ネオニコチノイド系農薬の影響かもしれません。

蜜蜂の大量死、人への脳・神経系、心臓系への有害作用が明らかになるなど、日本以外の国では使用禁止、中国でも日本向け輸出品のみ使用許可されているという、危険なものですが、日本では使用量が増え、稲作にまでも使用されています。この農薬の被害と思われる症状が、多かったと思います。

住宅街では、食べ物から入ってくる人が多いのですが、家庭用品でも、ペットのノミ取り、シロアリ、アリ、コバエ、ゴキブリ対策、ガーデニング用などにも使われています。なので、知らない間に生活空間に入り込んでいることも、あるのではないのでしょうか。

農村地域では作物への散布が頻繁になり、空中散布も行われていますので、より被害が強く出ていると思われます。

このような状況の中で、急性の症状が出てくる方もありますが、多くは、慢性的な症状に悩まされています。急性の症状は頭痛、嘔吐、嘔気、悪寒、腹痛、胸背部痛などでした。見逃しやすいのが、慢性の症状です。小さなお子さんは、湿疹や、蕁麻疹として反応が出ていたり、咳や、鼻汁が多かったり、中には、情緒不安定、発達障害として反応が出ていたり、不機嫌が唯一の症状であったりします。ORTで農薬との共鳴現象を調べて、判断するのですが、大抵は、食物アレルギー、感染症（細菌、ウイルス、真菌など）、農薬以外の環境汚染物質などの影響を受けているので、それらの影響のグレードを診ながら、農薬の被害のグレードが高いときに、その対策を取っていただきます。

8月においでになった大人の方ですが、7月になってから、急に眼圧が高くなった、視野が暗く、欠けてきた、と言われました。調べてみますと、ネオニコチノイド系をはじめ、有機リン系、ピレスロイド系の、農薬にのみ反応し、症状が出ていました。解毒剤を使用してもらい、眼科の点眼薬、超希釈尿療法、さらに周りの畑の農薬の転写水を作り使用してもらうようにしました。

慢性の気になる症状がおありの方、農薬かもと思われる方は、まずは、身の回りの、除ける農薬を除いてみてください。なかなか良くならない時は、ご相談においでください。何らかの改善への道が見つかると思います。

鈴木富美